

平成13年度に指定した飼料用とうもろこし優良品種

飼料用とうもろこしの早生品種「KD520」、晩生品種の「パイオニア118日」は収量性、耐病性に優れ、本県での高位安定生産が期待できる。

表1 生態特性、形態的特性

品種名	早晩性	播種日からの日数(日)				播種～黄熟期の積算温度(°C)		かん長 (cm)	着雌穂高 (cm)
		発芽	雄穂抽出	絹糸抽出	黄熟期	有効	単純		
KD520	早生	9	71	72	119	1,198	2,392	255	188
DK474(標)		9	71	72	115	1,164	2,314	240	100
パイオニア118日	晩生	9	77	78	127	1,270	2,536	290	143
G4742(標)		9	78	81	128	1,280	2,556	270	139

栽培適地は KD520 が標高 500m 以下の県下全域、パイオニア 118 日が県中・南部の標高 500m 以下の地域である。また、10a 当たりの栽植本数は KD520 が 7,000 本、パイオニア 118 日が 6,000 本である。

表2 障害・病害

品種名	有効雌穂割合 (%)	倒伏割合 (%)	病害					
			入紋 1無-9甚	ごま葉 1無-9甚	黒穂病 (%)	根腐病 (%)	紋枯病 (%)	萎縮病 (%)
KD520	100	0	1	1.9	0.4	0.4	1.6	0.4
DK474(標)	99.2	0	1	1.2	1.4	2	0.8	0.6
パイオニア118日	99.4	0.3	1	1.3	3.7	0.8	0.2	0.2
G4742(標)	93.3	0	1	1.3	6.4	4.1	0	1.3

両品種とも黒穂病、根腐病に対して既存品種よりも強い。また KD520 はごま葉枯病、紋枯病に対してやや弱い、実用上問題はない。

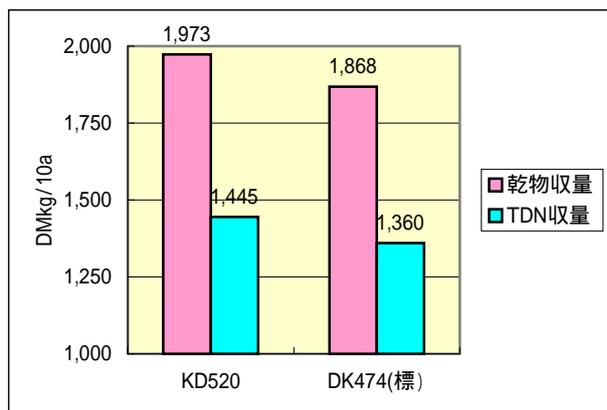


図1 KD520 の生産性

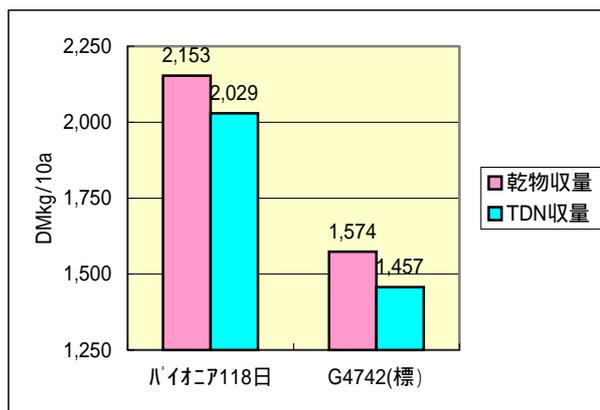


図2 パイオニア118日の生産性

乾物収量、TDN 収量とも既存品種よりも多収で、子実の稔実も良好である。